

2017年度 学校法人 三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 小高 政利

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 富田佳代

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【2017年度目標】

- ・ 退学率の低減
- ・ 社会に適合できる、必要とされる人材を育てる
 - (1) 基礎指導の徹底 (あいさつ・返事・言葉づかい・時間管理・体調管理・笑顔・清掃)
 - (2) 主体性の育成
 - (3) 資格取得
 - (4) 技術の向上

⇒以上を達成するために、「担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと」「産学連携の強化」に取り組んでいく。

【振り返り】

- ・ 退学率は3%まで減少。2018年度は更なる低減を目指す。
- ・ 北海道内の美容学校の中で最も高い美容師試験合格率であった。
- ・ 教育課程編成委員会においても、人材育成において活発なご意見を多数頂いたことから、2018年度も引き継ぎ2017年度と同様の目標を立て、各項目についてより強化できるよう取り組んでいきたい。

①学校関係者評価委員会コメント

- ・ 2017年度は資格、検定合格率、退学率、入学者の増員において、良い結果を収める事ができた点は評価できる。
- ・ 今後は数字だけではなく、教育の質向上と業務効率化に力を入れていく事で更に学校が発展していくように感じる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・教育理念、目指す人物像共に教職員・生徒・保護者への浸透が十分とは言えないため、さらに発信していく必要がある。

②今後の改善方策

- ・年度初めの会議の中での説明だけでなく、定期的に行っている担任会議やクラス会議、教科会議等においても、学校の理念・目的・育成人材像が浸透させられる為の時間を設ける。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

<高田委員>理念の浸透のために、美容師として何が必要であるかを示した「芭里絵 心の5か条」というものがある。新入社員は、まず覚え、朝礼等で復唱していく中で、徐々に言葉の意味が分かるようになる。自分で仕事を振り返る際にも、活用している。社員が増えてくると、伝えているつもりでも伝わっていないということが起こる。手帳に理念を記載し、全員に配布している。すべてはお客様のためという考えを浸透させるためには、定期的に振り返ることが必要。

(2) 学校運営

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・2015年度より教職員向けのポータルサイトが立ち上がり、サイト上で規定及び発信文書の管理が行われる様になっているが、昨年に引き続き教職員の活用状況が未だ十分ではない。

②今後の改善方策

- ・上手くサイトの活用が出来ている職員より、操作方法の開設、事例共有等の研修を定期的に定例会議の中で実施する。

③特記事項

- ・昨年度評価が高くはなかった「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」の項目に関しては、運営組織（ビジョンと方向性の共有）が大きく変更されたことにより、組織風土が変わり多くの成果を生むことができた。

④学校関係者評価委員会コメント

<轟委員>社内イントラについては、興味を持ってしっかり見る人、見ない人の差が出てしまう。主体性を持って見るためには、上司や先生の導きが必要であろう。良いものも活用されなければ、意味がないものになってしまう。

(3) 教育活動

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

・以下2点の事が考えられる。

1) 施設実習における目標喪失の防止

毎年実施される職業教育（施設実習）において、理想とする職業とのギャップに苦しむ生徒への指導が不十分である。

2) 資格取得だけに偏る授業の進め方の見直し

科目によっては資格取得に力を入れた授業運営を実施する為、生徒が現場に出た際にコミュニケーション力や接客力がないと業界から指摘されることがある。

（例：サービス接遇、メイク実習、エステ実習、美容実習など）

②今後の改善方策

1) に関しては施設実習に参加する前の事前指導を見直し、更に実習期間が終わった後すぐに、「実習報告会」を実施する等、事前事後指導に力を入れていく。

2) に関しては、年間2回実施される教育課程編成委員会の中で挙げた意見や企業から頂いた評価を職員に発信するだけでなく、頂いた意見を具体的にどう授業に組み込んでいくかを教科会の中で考案し実施していく。

③特記事項

・昨年の課題でもあった、資格取得の指導体制に関しては、体系化したことで生徒の資格取得に対するモチベーションを高めることが出来た。結果として、美容師免許取得合格率に関して高い実績を残す事が出来た。

④学校関係者評価委員会コメント

<池沢委員>実習の場では、引っ込み思案の生徒が比較的多いと感じている。

仕事上必要なお客様の情報交換を悪いものと捉え、会社を評価してしまう傾向がある。

売り上げや数字を追うことは、生徒の夢の職業観には入っていない。経営上必要なことなので、経営感覚を養うカリキュラムがあるとよい。

<富田委員>普段の生活の中での気遣いを教えてくれる学校と感じている。例えば、エレベーターの操作のマナーや気遣いも、学生生活の中で習慣化された。他校には感じない部分である。

お客様がいるから自分たちの仕事がある。自分だけを見てはダメだということを伝えたい。

(4) 学修成果

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・昨年同様、卒業生とのコミュニケーションが上手く取れていないと感じる。

②今後の改善方策

- ・社歴の長い教員は卒業生と連絡を取り合う事もある為、そこで得た情報を定例会議などで積極的に行える場を設け、情報共有を強化していく。
- ・引き続き、学校のHPやSNSを活用し同窓会サイトの存在の周知徹底と卒業式前のHRにて全ての卒業予定者に同窓会サイトのリーフレットの配布を実施。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

<高田委員>在校生向けに実施している、有名美容師の講演や講習会に卒業生も参加できるとありがたい。同窓会サイトを通して案内するのはいかがか。

<冨田委員>在校生とともに参加できるものがあると、卒業生と交流する機会もあり、在校生にとってもメリットであると感じる。卒業生同士も、情報共有ができる機会があるとありがたい。

学校には、お世話になった先生がいないと足が向きづらいので、行きやすい何かがあるとよい。

(5) 学生支援

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4

学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・卒業生とのコミュニケーションツールとして卒業生同窓会サイトがあるが、卒業生からの認知度が低く活用しきれていない。

②今後の改善方策

- ・学校のHPやSNSを活用し、サイトの存在を周知し利用を促進する。

③特記事項

- ・昨年度は学生の健康状態、既往歴が把握されにくいという課題があったが、年間2回実施するクラス会議にて情報共有の徹底が行われた為改善された。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(6) 教育環境

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・授業で使用する機材の破損が多くみられた。

②今後の改善方策

- ・2018年度は最新校舎で最新設備の整った環境に変わる為、改善される見込み。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・募集活動は適正に行い、資格取得率、就職率等、パンフレットで伝えているため、課題は特にないと考えている。また、2017年度に関しては募集状況において、良い成果をあげる事ができた。

②今後の改善方策

- ・特になし

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(8) 財務

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

・更なる法令遵守を徹底していく。

②今後の改善方策

・全体で集まる会議や配布物を通して、関わる全ての教職員へ継続して啓蒙していく。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施してい	3

るか	
----	--

①課題

- ・地域に対しての働きかけが薄い。
- ・教育訓練の受託はしているが、希望者が出ていない。

②今後の改善方策

- ・地域貢献のために、何ができるのかを検討し実践する。

③特記事項

- ・本校では地域への貢献策として、生徒へのボランティア活動への参加を積極的に促しており、多くの生徒が参加している。

<事例>

- ・東急百貨店における、学生サロンの設置運営。
- ・小学生対象の職業体験イベント、他にも多数実施。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・2017年度は「退学率の低減」「資格取得」において大きな結果を残すことができた。
しかし、全卒業生から回収している「卒業生アンケート」の結果を分析すると、学校側が考え取り組んでいる、各種改善・解決策と生徒が望んでいるもの間に若干の隔りがある様に感じられる。
今後は、学校関係者や業界の方々、卒業生や保護者、在校生の意見を吸い上げる機会を多く設け、学校側が考える教育上の課題と、周りの方々が感じる課題との間にあるギャップを極力無くし、よりよい教育活動を行える様、努めていきたい。

以上